

最近の整理資料から

特別資料室

特別資料室で最近整理を完了した資料から、まとまったコレクションになっている五種の資料を紹介する。

金子馬治関係資料（又6 - 9304）

金子馬治（筑水、1870 - 1937）は坪内逍遙の薫陶を受けた東京専門学校文学部の第一期生であり、早稲田文科初期の代表的人物の一人であった。卒業論文が「早稲田文学」に掲載されたのをきっかけに、文学・哲学関係の論文・評論を陸続と発表した。金子は早稲田大学文学部の初代学部長であり、坪内逍遙記念演劇博物館の初代館長もつとめた。

本資料は、金子が東京専門学校の第一回海外留学生としてドイツに派遣されライプツヒヒ大学を卒業した時の分をはじめ、金子馬治の経歴を充分知ることのできるもので、原稿・書簡・著作・手沢本などで構成されている。とりわけ「一代女に於ける井原西鶴の理想」や「芸術の価値」といった「延葛集」「早稲田文学」の原稿など、初期の活躍を如実に示す多くの原資料を含んでいて貴重である。また、書簡は草創期の学苑の様子を知る上で欠かせないものとなっている。



金子馬治原稿

本資料は金子馬治令孫山田治子氏より寄贈を受けたものである。目録は「金子馬治（筑水）関係資料目録」全175点。

漆山天童旧蔵資料（イ4 - 3159）

漆山天童（又四郎、1873 - 1948）は山形県出身の漢学者、国文学者、書誌学者として知られた。『陶淵明集』や『杜詩』『唐詩選』『三体詩』など多くの漢詩文の訳注を手がけ、幸田露伴の弟子として『露伴全集』の編集に従事した。書誌学では『新撰浮世絵年表』はじめ絵本、絵入本の分野で功績があった。

本資料は天童の自筆稿本・写本・刊本・書画・書簡・写真などで構成されており、漆山天童の全業績を展望できるもので、その業績の多彩さ、能筆ぶりが知られる。中には小説『舟中物語』原稿や「木版挿絵本年代順目録」「挿絵本芝居台帳音順目録」「黒本目録」「小説年表原稿カード」など多数の目録の稿本があり、書簡には幸田露伴、斎藤茂吉差出のものがある。また『春雨物語』など国文学研究に裨益するところの資料が含まれている。



漆山本『春雨物語』

本資料は漆山天童令嬢遠藤文子氏より寄贈を受けたものである。目録は「漆山天童旧蔵資料目録」全584点。

小倉金之助伝記資料 (イ16 - 1276)

数学者小倉金之助(1885 - 1962)の旧蔵書は博士のご好意で、その生前に早稲田大学図書館蔵に帰し、「小倉文庫」として整理された。とりわけ、『塵劫記』などの和算書の貴重なコレクションについては、つとに知られているところである。

今回あらたに加えられた資料は、書簡・葉書・文書類が主なものである。山形県酒田の回漕問屋に生れ、東京帝国大学選科に入学したが中退。東北帝国大学助手から大阪医科大学予科教授、フランス留学、東京物理学学校理事長、第二次世界大戦後日本科学史学会を創立し、民主主義科学者協会会長をつとめるといった経歴をたどった、小倉博士の生涯がわかる伝記的資料というべきものである。これらは小倉金之助の著作『数学者の回想』(昭和25年4月刊)の内容を彷彿させる資料群である。書簡は学位授与や『日本の数学』刊行時のものが多い。中には、三木清、三枝博音、羽仁五郎、三上義夫、山田盛太郎、戸坂潤、田辺元、桑木或雄といった人々差出の書簡が含まれている。

本資料は小倉金之助令孫小倉欣一文学部教授より寄贈を受けたものである。目録は「小倉金之助伝記資料目録」全470点。

本間久雄文庫補遺資料 (文庫14)

本学名誉教授本間久雄(1886 - 1981)の旧蔵資料は、その生前に早稲田大学図書館蔵に帰し、「本間久雄文庫」として整理、活用されている。同文庫は明治大正文学に係わる優れたコレクションで、750点を超える自筆稿本類を含み、つとに近代文学研究者から高い評価を得ている。

今回の資料は「本間久雄文庫」を補完する資料であり、補遺として加えるものである。内容はほとんどが近代作家の書簡である。「早稲田文学」の編集をまかされた本間久雄に宛てた坪内逍遙の細やかな心遣いが伝わる170通を超える書簡をはじめ、仲間内の気楽さからユーモラスな渾名の登場する硯友社時代の巖谷小波書簡、須藤南翠が三品蘭溪に出した明治の作家の生活事情がひしひしと伝わる書簡を含む三品蘭溪宛諸家書簡、他に高橋太華、宮崎三味差出の多い森田思軒宛諸家書簡など全307点である。

本資料は本間久雄令嬢高津久美子氏より寄贈を

受けたものである。目録は「本間久雄文庫目録補遺」

桑木或雄関係資料 (又6 - 9305)

物理学者桑木或雄(1878 - 1945)は明治29年に東京帝国大学に入学し、長岡半太郎、田中館愛橘などに学び、後に九州帝国大学教授、旧制松本高校校長を歴任した。桑木は哲学者として著名な4歳年長の兄巖翼の影響もあって物理学の哲学的問題に関心を持ち、マッハの研究からアインシュタインの特殊相対性理論に関心を持つに至った。



アインシュタインを迎えた桑木或雄
(前列左から2人目、写真は桑木資料所収のもの)

全2162点に及ぶ本資料は、桑木或雄の生涯や業績を知るのに格好の材料を提供してくれるが、とくに1750通を超える書簡群に、桑木の学問上やそれ以外の分野における豊かな人間関係をみることができ、2度にわたる欧米滞在時の絵葉書などに家族への深い愛情を窺うことができる。主な桑木宛書簡の差出人は、長岡半太郎、田中館愛橘、山川健次郎、本多光太郎、新村出、石原純、寺田寅彦、中村清二、大槻如電、田辺元、西田幾多郎、柳田国男、小倉金之助、松井須磨子、島村抱月、マックス・プランク、桑木巖翼などである。

本資料は桑木或雄令孫桑木敏氏より寄贈を受けたものである。目録は「桑木或雄関係資料目録」

(文責：久保尾 俊郎)